

2007年9月12日

報道関係各位

株式会社ラック

ラック、データベースセキュリティ改善のための最適対策集を無償公開 - システム全体を網羅し、対策の重要度が一目でわかる「セキュア DB マトリクス」 -

ネットワークセキュリティソリューション分野のリーディングカンパニー、株式会社ラック(本社:東京都港区、代表取締役社長:高梨輝彦、以下ラック)は、データベース内の重要な情報資産を守るために必要な対策について、データベースだけに限らずシステム全体を対象とし、対策の重要度や対象別に整理した「セキュア DB マトリクス」を無償公開しました。(<http://www.lac.co.jp/business/laboratory/dbsl/matrix/index.html>)

個人情報保護法の施行や多発する情報漏洩事件等をきっかけに、企業の情報資産を保護することの重要性についての理解は広まってきましたが、ネットワークやアプリケーションの対策に比べ、データベースの対策状況は十分とは言えません。セキュリティ対策が不十分なデータベースは、不正アクセスや情報詐取等の被害を受けやすく、万が一被害を受けた場合には、直接的損害に加え、社会的信用失墜や顧客離れによる収益悪化、被害者への巨額な賠償金等の二次損害も招き、経営に多大な影響を与えかねません。しかしながら、このような危険性を認識し、データベースセキュリティ対策を実施しようとしても、データベースのリスク分析には高度な経験と知識を要します。また、「何をすべきか、何から着手すべきか」といった対策検討にも苦労している企業が多いのが実情です。

そこで、データベースに対する脅威や攻撃手口への対策専門研究機関であるラックの「データベースセキュリティ研究所(DBSL: Database Security Laboratory)」は、データベースセキュリティ対策の最適化に必要な、改善活動、プロセス改善作業、人的運用などを体系的にまとめたノウハウ集「セキュア DB マトリクス」を作成しました。セキュア DB マトリクスは、企業担当者がセキュリティ対策を検討する際や、リスク分析の際のセルフチェック(自己点検)時に利用されることを想定して、以下の3つの特長をもっています。

1. 網羅性 …… 対象はシステム全体をカバー
対策漏れを無くすとともに、セキュリティ対策の全体像が見えます。
2. 判断基準 …… 「(赤印)」、「」、「」の3段階で対策の重要度を表現
深刻な弱点を改善する対策や少ない時間で効果の高い対策、運用中のデータベースに適用する場合の難易度等を考慮し、重要度を定義しています。
3. 分かりやすさ …… 対策実施対象となる箇所および対策の種類別に整理されています。

ラックのデータベースセキュリティ研究所では、企業の重要な資産となるデータベースの安全性確保の理解と対策促進を図るため、引き続き研究資料の配布、啓発サイトの運営、啓発イベントの開催などに取り組んでまいります。

なお、「セキュア DB マトリクス」の内容を解説し、企業の担当者がデータベースセキュリティに関しての対策を実践するための無料セミナーを開催します。詳細・お申し込みは以下の URL をご参照ください。

(<http://www.lac.co.jp/seminar/071018.html>)

以上

(付帯情報) セキュア DB マトリクスの利用方法

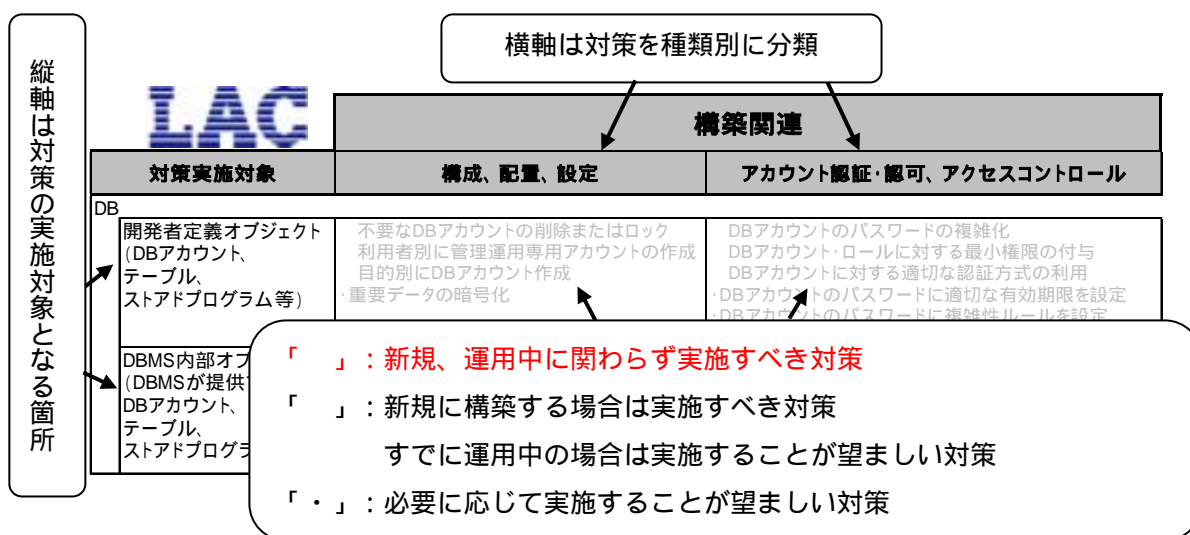
1. データベースセキュリティ対策の設計・実装の対策基準として利用

セキュア DB マトリクスに記載されている対策および重要度をもとに、データベースセキュリティ対策を設計・実施します。事前のリスク分析が困難な場合でも、**(赤印)がついている対策項目**はできる限り実施してください。

2. 運用中のデータベースに対するセキュリティ対策チェックリストとして利用

すでに運用中であるシステムに対して、セキュリティ対策のためのチェックリストとして利用することで、技術上や運用上の弱点が明らかになり、実施しなければならない対策や検討材料が明確になります。

セキュア DB マトリクスは対策箇所別に記載されているため、DB 管理者やシステム管理者、ネットワーク管理者等が、各担当分野のセキュリティ対策実施状況を確認しやすくなっています。



なお、ラックでは、セキュア DB マトリクスを活用してセキュリティ強化を考慮されるお客様に対して、以下のサービスをご用意しております。ご興味のある方はお問い合わせください。

- 対策の検討、設計を支援・監査して欲しい……………テクニカルコンサルサービス
- データベースを含めたシステムの構築をして欲しい……………セキュア DB 構築サービス
- セキュリティ監査や、設定上や運用上の弱点を把握したい……………DB セキュリティ診断サービス
- 自社のポリシーを反映したガイドラインを作成したい……………セキュア DB ガイドライン作成
- 証跡確保、内部統制対策で DB 操作ログを取得したい……………DB 監査導入支援サービス
- ログを分析し、傾向の把握や不審な操作を検出したい……………DB 監査ログ分析サービス
- セキュア DB マトリクスの内容をトレーニングして欲しい……………教育支援サービス

* LAC、ラック、JSOC(ジェイソック)は、株式会社ラックの登録商標です。その他、記載されている製品名、社名は各社の商標または登録商標です。

データベースセキュリティ研究所(DBSL: Database Security Laboratory) について

データベースセキュリティ研究所は、IT の要であるデータベースに関するセキュリティ上の脅威およびセキュリティ対策に関する調査・研究を専門行っている部門です。

研究成果は、セキュリティ診断サービス、DB 監査ログ分析サービスなどに反映させて事業に貢献しています。また、情報漏洩や不正アクセス等への対策事項をまとめた「セキュアDBマトリクス」の無償公開、研究所レポートの発信、専門誌へのテクニカル記事の執筆等、情報発信も行っています。さらに、政府系の委員会活動、データベース・セキュリティ・コンソーシアム の事務局やワーキンググループ活動を通じて政府への働きかけを行う一方、企業の技術者向けのセキュリティ対策ガイドラインを公開するなど、セキュリティ対策啓発活動も活発に行っています。

株式会社ラックについて

株式会社ラックは、いち早くネットワーク社会の到来を予測して1986年9月3日に設立されました。ネットワークセキュリティソリューション分野でのリーディングカンパニーとして、「データベースセキュリティ研究所(DBSL)」、「コンピュータセキュリティ研究所(CSL)」にてセキュリティに関する情報を日々、蓄積・分析・検証を行い、リモート監視センターJSOCにて顧客システムの24時間365日のセキュリティ監視・分析を行っています。また、先進のセキュリティテクノロジーを、セキュアネットサービス事業とシステムインテグレーション事業が提供するサービスに付加し、官公庁・企業・団体等の顧客にセキュリティソリューションサービスを提供しています。

株式会社ラックの会社概要・詳細は次の Web サイトでご参照頂けます。

URL: <http://www.lac.co.jp/>

本件に関する報道関係お問い合わせ先

株式会社ラック
社長室 広報担当 大島
TEL: 03-5537-2600 E-Mail: pr@lac.co.jp

本件に関するお客様からのお問い合わせ先

株式会社ラック 営業部
TEL: 03-5537-2610 E-mail: sales@lac.co.jp
URL: <http://www.lac.co.jp/>